

Webにおける開かれた小学校社会科地域読本の一試案 ～ 概念探究学習をベースにした地域読本を例に ～

秋田 真 弘前大学教育学部附属小学校

【キーワード】 社会科地域読本 概念探究学習 Web教材 知識の質

I 問題の所在・目的

従来の社会科地域読本は、地域に関する知識を増やすものといったものが主流であり、加えて、学び方・調べ方を取り入れたものも見られるようになってきた。このような社会科地域読本は現在、教育委員会や学校、社会科学研究団体や教員らの手によってインターネットのWebでデジタル化されるようになってきた。それらは従来の印刷物としての社会科地域読本と違い、新鮮な情報を提供できる。さらに情報の送受信も可能であり、世界中の誰にでも地域読本としての情報提供が可能である。また、地域読本の情報からさらに関わりのある情報を継ぎ目無く統合化できるといった環境も可能である。しかし、質の高い知識を扱う概念探究の手法を用いたWeb社会科地域読本は見あたらない。また、体験・経験の欠乏が学習を不成立にしてい^{*1}るといったことが言われている現状から、本題目での目的を次のように設定した。

- ① 質の高い知識を扱う概念探究の手法を用いたWeb社会科地域読本試案を作成する。
- ② 体験知を補完するための資料や音声、映像を取り入れたWeb教材を作成した。

II 方法

上記の研究目標を達成するために、次の方法をとった。

- (1) 概念探究学習理論をベースにしたWeb小学校社会科地域読本試案の一部を青森県弘前市を素材として提示する。
- (2) Webの特性を生かして、動画や音声を、児童が容易に引き出すことができる教材を作成する。

III 研究経過

- (1) 知識の質および概念探究学習を組み込む

概念探究学習では図

1・2のように記述的知識・分析的知識・説明的知識と積み上げて

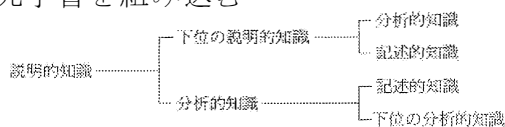


図1: 岩田氏^{*2}による知識分類

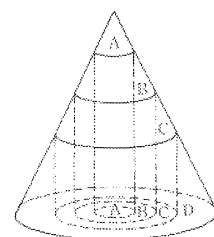


図2: 知識間関係構図

いくことが一般的となっている。様々な社会科理論でも「問い」は重要である。概念探究学習では「問い」を重視する。「問い」の答えは「知識」である。そこで知識の質と知識習得過程を明確にし児童に取得させることで、より質が高く応用が利く知識を身につけさせることが重要であると考え、概念探究学習を組み込

*1岩田一彦 『社会科授業研究の理論』 明治図書 1994年 pp.46-47.

*2同 pp.38-44.

む。作成するW e b 社会科地域読本は岩田一彦^{*3}氏による「概念探究学習」をベースにしている。

(2)国内のW e b 地域読本の先行事例

国内の開かれた63のW e b 社会科地域読本について、知識の質や知識の習得過程及び資料の扱い方から分析した。その結果、次のことが明らかとなった。一つは記述的知識を獲得させることをねらいとしたもの。もう一つは、前者に手段・方法や構造を求める知識を加えたものである。概念探究型学習をベースにしたW e b 地域読本は、調査時点では見あたらなかった。さらに60事例が、現在まであった地域読本をW e b 化したものであり、内容はこれまで地域で印刷・製本し配布していたものと何ら変わりが無いということが明らかになった。W e b の特長を生かしたものも調査時点では見あたらず、概念探究学習をベースにした、W e b 小学校社会科地域読本試案の作成を試みた。

(3)研究対象の選定理由及び全体構成

研究対象として、第5学年での地域の生産活動を取り上げる。概念探究型学習では、原因と結果の因果関係を重視している。試案対象の弘前市はリンゴの生産において、市町村の部で生産量が全国第1位になった理由を追究できるからである。

読本の全体構成は右図のように第5学年の産業学習を扱った内容となる。

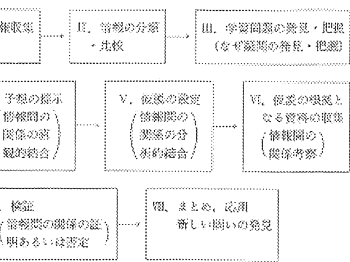


図3：概念探究の基本的学習段階

5年 読本 目次

- 1 津軽平野の米作り
- 2 弘前市のリンゴづくり
- 3 弘前市の工業
 - (1)ジュースを作る工場
 - (2)携帯電話を作る工場
- 4 弘前市の運輸

図4：読本全体構成目次

(4)W e b 社会科地域読本「リンゴづくりのさかんな弘前市」知識構造

本W e b 社会科地域読本における知識構造は第5学年が対象学年であることから、次のように置き換えた。

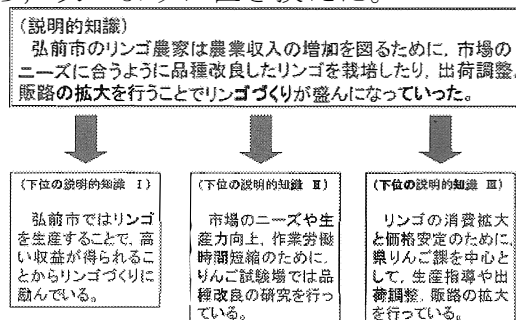


図5：弘前市のリンゴ生産における説明的知識

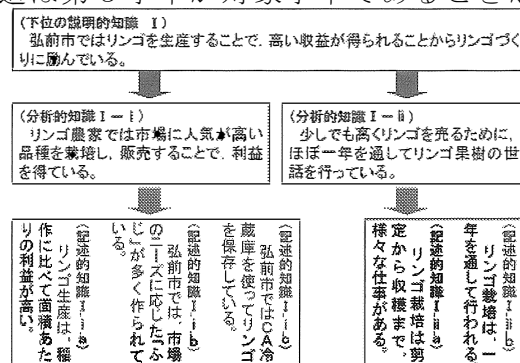
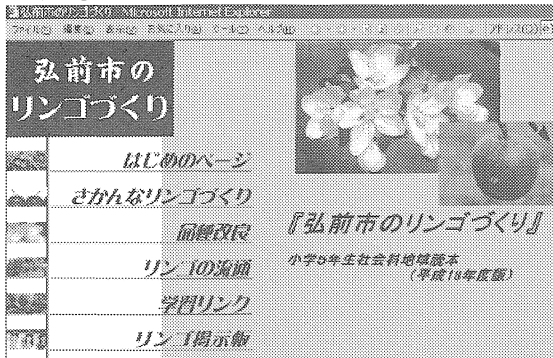


図6：分析的知識から記述的知識

(5)読本の実際

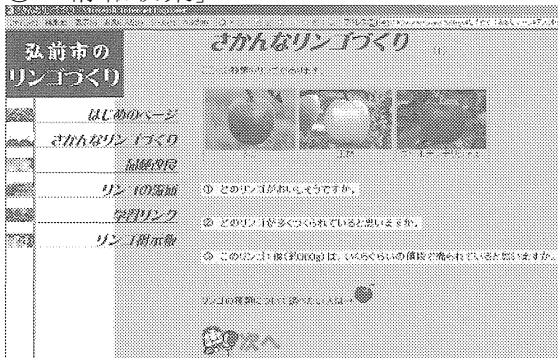
本W e b 読本試案のW e b 社会科地域読本には「発問」・「指示」を記述した。本読本はHTMLにて書かれたプログラムであるため、変更が容易である。児童の実態や教師の意図によって、表示されている「発問」・「指示」や「知識」を児童に隠して提示する事も可能であるといった利点がある。(報告書掲載は一部)

i はじめのページ

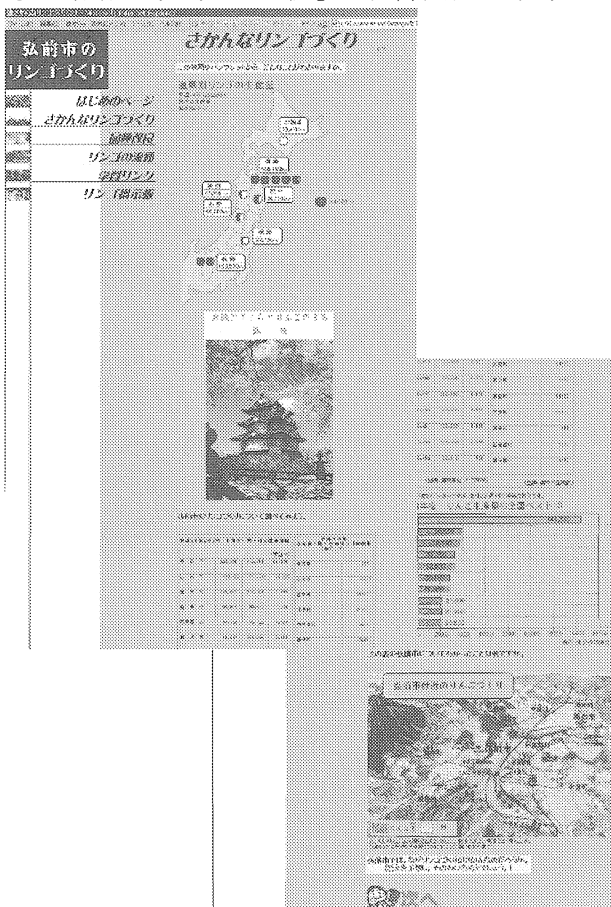


ii さかんなリンゴづくり

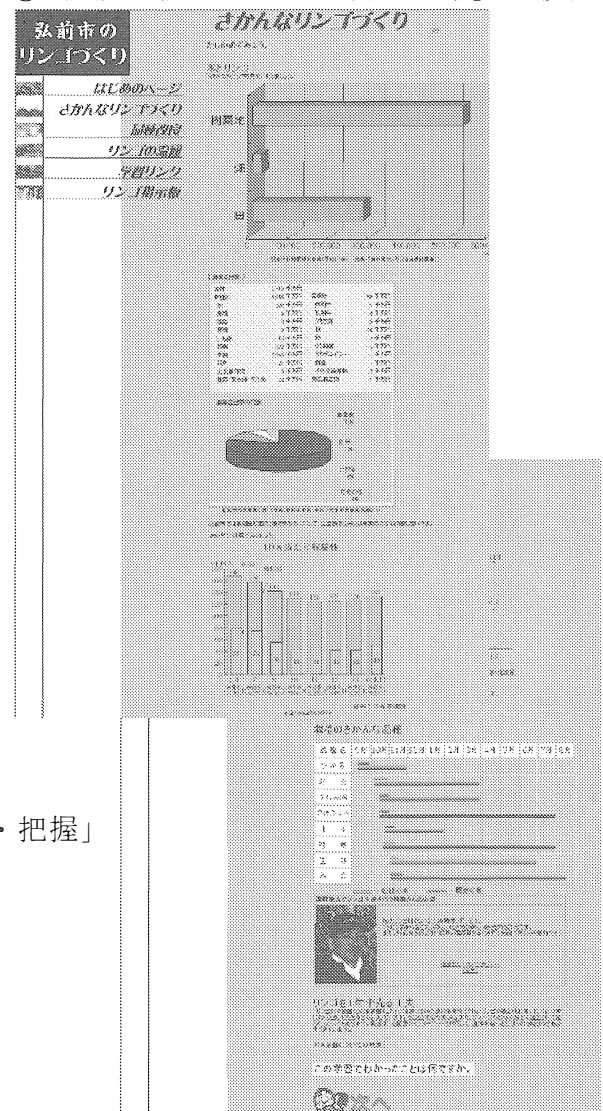
①「情報収集」



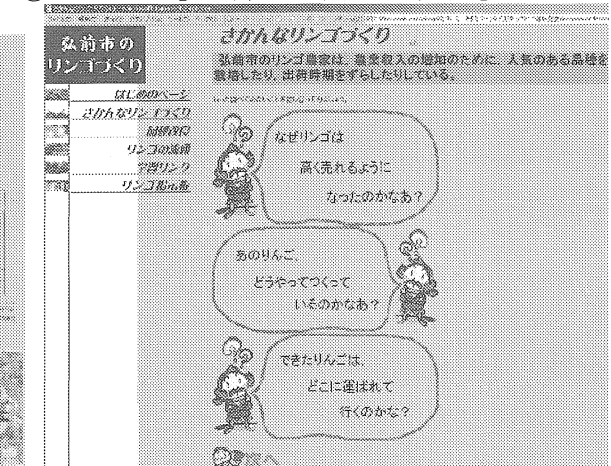
②「情報の分類・比較」「学習問題の発見・把握」



③「仮説の根拠となる資料の収集」・「検証」



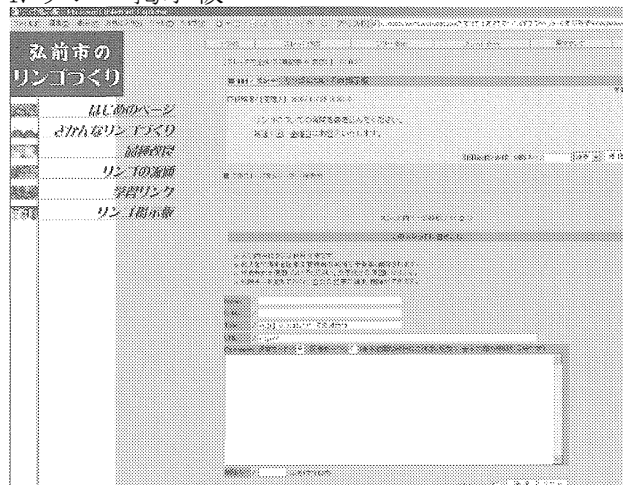
④「まとめ」「新しい問いの発見」



iii 学習リンク



iv リンゴ掲示板



IV 成果と課題

本研究における成果は、概念探究学習をベースにし、「生きた知識」「応用可能な知識」を扱ったWeb社会科地域読本試案の一部を作成できたことである。読本は学習者が主体的に資料収集、予想・仮説づくりができ、学習者の相互交流が可能である。そのため地域に開かれ、世界に開かれたものとなった。また、体験知を補完するための資料や音声、映像を取り入れたWeb教材を作成した。

今後の課題は二点ある。一点目は、実際に本Web地域読本を活用した授業を行い、授業分析をし、読本の内容を改善していく点。二点目は、日々進化する情報技術の革新に対応したWeb教材の改良が課題である。

V 主要引用文献

- 祇園 全緑 『社会認識形成の視点からみた福岡県地理教育史』 社会科研究 1983
 岩田 一彦 『社会科固有の授業理論30の提言』 明治図書 2001
 岩田 一彦 『社会科授業研究の理論』 明治図書 1994
 岩田 一彦 『小学校 社会科の授業設計』 東京書籍 1991
 岩田 一彦 『小学校産業学習の理論と授業』 明治図書 1991
 波多江久吉 『青森県りんご百年史』 青森県りんご百年記念事業会 1997
 高橋 正雄 『東北地方りんご栽培地域の地誌学的研究』 伊吉書院 1994
 朝倉隆太郎 『地域に学ぶ社会科教育』 東洋館出版 1998
 山口幸男他 『郷土の範囲に関する地理学的考察』 新地理 1999
 松下 誠 『社会認識における探究能力・技能育成の論理』 兵教大修士論文1998
 文部科学省 『新「情報教育に関する手引」』 2002

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/020706.htm